

そのこと

写真



この写真は、1945年8月6日、広島市に投下された原子爆弾の爆発の瞬間を捉えたものである。巨大なキノコ雲が立ち上り、周囲の建物や木々が壊滅した様子が写し出されている。

写真提供：NHKアーカイブス

広島県立広島工業高等学校の屋上から見た
広島県産業奨励館と焼け跡付近

写真



この写真は、1945年8月6日の原子爆弾襲撃後、広島県立広島工業高等学校の屋上から撮影されたものである。焼け跡の荒廃した様子と、産業奨励館の残骸が写し出されている。

写真提供：NHKアーカイブス

中国軍管区司令部防空作戦室の入口

写真



この写真は、1945年8月6日の原子爆弾襲撃後、中国軍管区司令部防空作戦室の入口の様子を写している。周囲は瓦礫の山と焼け跡で覆われている。

写真提供：NHKアーカイブス

山口町付近の畑の屋上から、南を望む

写真



この写真は、1945年8月6日の原子爆弾襲撃後、山口町付近の畑の屋上から撮影されたものである。遠くには山並みが見え、周囲は焼け跡で覆われている。

写真提供：NHKアーカイブス

藩庁跡から北方を望む

写真



この写真は、1945年8月6日の原子爆弾襲撃後、藩庁跡から撮影されたものである。遠くには山並みが見え、周囲は焼け跡で覆われている。

写真提供：NHKアーカイブス

日本赤十字社広島支部

写真



この写真は、1945年8月6日の原子爆弾襲撃後、日本赤十字社広島支部の残骸を写している。周囲は瓦礫の山と焼け跡で覆われている。

写真提供：NHKアーカイブス

日本銀行広島支店の内部

写真

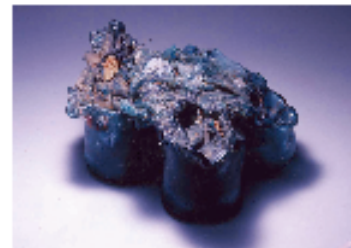


この写真は、1945年8月6日の原子爆弾襲撃後、日本銀行広島支店の内部の様子を写している。周囲は瓦礫の山と焼け跡で覆われている。

写真提供：NHKアーカイブス

溶けた一弁びん

写真

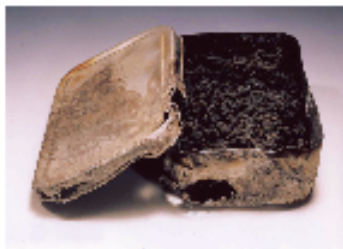


この写真は、1945年8月6日の原子爆弾襲撃後、溶けた一弁びんを写している。周囲は瓦礫の山と焼け跡で覆われている。

写真提供：NHKアーカイブス

弁当箱

写真



この写真は、1945年8月6日の原子爆弾襲撃後、弁当箱を写している。周囲は瓦礫の山と焼け跡で覆われている。

写真提供：NHKアーカイブス

時計



この写真は、1945年8月6日の原子爆弾襲撃後、時計を写している。周囲は瓦礫の山と焼け跡で覆われている。

写真提供：NHKアーカイブス

広島・長崎の被災状況

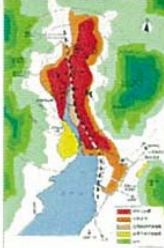
1945(昭和20)年8月8日午前8時15分、広島に人類史上初めて原子爆弾が投下されました。続く、8月9日午前11時2分には、長崎に原子爆弾が投下されました。
ふたつの原子爆弾によって、21万人以上の方が亡くなり、15万人以上の方が負傷しました。

原子爆弾とは

ウランやプルトニウムといった元素(げんそ) (物質をつくっている一層もど) になっているものに中性子(ちゅうせいし)を衝突(しょうとつ)させると、原子核がふたつに分かれて(核分裂)エネルギーを放出します。1個の核分裂では少しのエネルギーしか出ませんが、核分裂と同時に中性子が飛び出し(連鎖はんのう)核分裂が起こることによって、巨大なエネルギー(熱線・爆風・放射線)が出ます。このエネルギーを兵器に利用するのが原爆です。

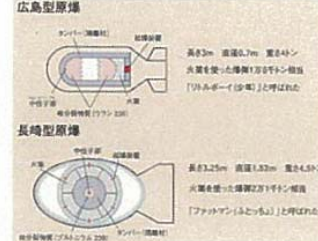


長崎原爆による長崎市の被害状況



長崎に投下された原爆と広島に投下された原爆の違い

原爆を爆発させるためには、ある一定量(臨界量(りんかいりょう))以上の核分裂物質が必要になります。広島の原爆は、細長い金属の筒の両端に核分裂物質(ウラン235)を臨界量より少ない、2つのかたまりに分けておき、火薬を使い臨界量以上に合体させるガン・パレル(砲身)方式と呼ばれるものです。
長崎の原子爆弾は、核分裂物質(プルトニウム239)を火薬で取り囲む形で密閉(みっぺいし)。火薬の爆発力で中心部の核分裂物質を圧縮し、臨界量以上に合体させるインプロジョン(爆縮)方式と呼ばれるものです。



原子爆弾による長崎・広島被害の比較

	長崎市	広島市
投下日時	1945.8.9(木) 11:02	1945.8.6(月) 8:15
核物質	プルトニウム239	ウラン235
爆発の形状	ガン・パレル	ガン・パレル
爆発力	INT(火薬)24kgの 爆発力に相当	TNT(火薬)6kgの 爆発力に相当
高さ	4.5トン	4.0トン
長さ	3.25m	3.0m
直径	1.52m	0.7m
発射機	B29 スーパーfortress	B29 エンパイ
爆発点	約9.60km上空より投下	9.60km上空より投下
被害状況(被害)	被害状況(被害)と同等の被害	被害状況(被害)と同等の被害
当時の人口	約240,000人	約350,000人(約15万人)
死者数(推計)	73,884人	140,000人(±15万人)
負傷者数	74,900人	75,130人
被災者数	148,785人	219,130人(±15万人)
人口に占める 被災者比率	約32%	約63%
被災家数	18,409戸	76,327戸
全壊	11,374戸	47,999戸
全半壊	8,835戸	21,925戸
全焼先部屋	6.7平方km	13.2平方km